



大槌町海岸

# Atsuko Kudo Mail Magazine 216

2015.11.26 ●被災地ツアーと花井ご夫妻 ●テロ

## ●被災地ツアーと花井ご夫妻

11月10日～15日の被災地ツアー（釜石、山田、大船渡、福島第一聖書バプテスト教会）も、ハーブ奏者のキャサリンとともに、主に守られ、感謝な奉仕と交わりをさせていただくことができました。お祈りくださり、本当にありがとうございました。

3.11 大震災が起こった時、ドイツにいた私は、インターネットで24時間流されたニュースを見ながらおいおい泣く毎日が続きました。食事も喉を通らなくなり、しまいには腰が抜けたような状態になりました。4月には、ハンブルク日本語教会が主催したチャリティーコンサートに協賛出演。その後、日本でもチャリティーコンサートをし、支援を募りました。

私自身は、当初、被災地へ行くつもりはありませんでした。というのは、震災以降も被災地の現状に私の感情が激しく動いてしまい、被災地の皆さんの前に立ったら、泣き崩れて歌えなくなってしまうと思ったからです。ですから、私の使命は、遠方でチャリティーコンサートをしながらかつて祈りとともに支援を続けて行くことだと思っていました。



2002年、関東支援者の集いにて左のお二人が花井ご夫妻。残念ながらお顔が見えませんが・・・

しかし、2011年の秋、これまで私の活動を支えて来てくださった花井一郎・順子ご夫妻が、「被災地に慰めと励ましの歌声を届けに行つて欲しい」と、多くはない生活費から資金を貯め、ご夫妻の周りの何人かの方々も、活動費を援助して下さるとおっしゃるのです。

それでも、私の心は定まりませんでした。しかも、ご夫妻が「工藤さんのコンサート企画を」と提案した先の「3.11 いわて教会ネットワーク」（以下「3.11 いわて」と記載）でも、その日その日の支援が精一杯で、コンサートの企画どころではないという状態でした。



2015.11.11 釜石復興住宅の公民館

しかし、年の瀬になり、祈りを重ねるうちに、私の心に変化が生じて行きました。被災地に行って、被災された皆さんと同じところに立たせていただき、そこで、イエス・キリストにある本当の慰め、本当の癒しをお分かちするべきではないのか。同じ頃、「3.11 いわて」でも、コンサートを企画できるかもしれないという状況になり、翌年 2012 年春の帰国に合わせて、岩手県沿岸の数か所でコンサートをさせていただいたのでした。その後も花井ご夫妻らの祈りと援助は続けられ、毎年被災地にて慰問伝道コンサートを続けて来ることが出来ました。



2015.11.12 いっぽいっぽ山田カフェ

復興住宅建築も進み、今年は、仮設だけでなく、復興住宅の公民館でもコンサートをさせていただきました。皆さんの表情が、会うたびに明るくなってきています。「3.11 いわて」や「いっぽいっぽ釜石・山田」の忠実な活動により、福音に心開かれてきていることを感じます。

しかし、被災地の活動を支えてくださった花井順子さんが、10月25日、間質性肺炎のため、そして、丁度一か月後の11月25日、ご主人の一郎さんが天に召されました。振り返って思うと、お二人の召天は、11月15~20日の被災地ツアーを、まるでサンドイッチのように挟んでくださったのではないかとと思われる日でした。



2015.11.13 大船渡  
とみおかサポートセンター

花井ご夫妻は、私の日本の活動の支え人であり、また「仕掛け人」のような方でした。ご夫妻にお会いしたのは、1992年の2回目の帰国時です。突然東京の滞在先に電話があり、「教会（当時はまだ集会）で歌って欲しい」と言ってくられました。その集会で、それ以降、帰国する度にお世話になる、日本を代表する神学者 F 先生（故）を紹介していただきました（F 先生のごことは、メルマガ 167 号 [http://akworship.com/pdf/167\\_20101221.pdf](http://akworship.com/pdf/167_20101221.pdf) に書かせていただきました）。2000年に AKWM を立ち上げる時には、この3人は、陰の発足人として尽力して下さり、特に花井ご夫妻は、毎日私のために祈ってくださいました。

今年は、2月には AKWM スタッフの近藤宏子さんに続き、大切な支え人であり、主にある戦友を3人も失いました。しかし、3人とも、天の御国から、強力な祈りをもって私の奉仕を支えてくださっているに違いありません。そして、私も信仰の先輩たちの後に続き、最後まで忠実に主に仕える者になりたいと、心から思われています。

## ●テロ

11月14日朝、大船渡のホテルのテレビから目に飛び込んできたのは、まるで、映画のワンシーンかと思われるテロのニュースでした。その瞬間、9.11を思い出しました。あの日、丁度日本に到着した私は、滞在先のテレビをつけた時、目に飛び込んできた光景が、ニュースなのか映画なのか、一瞬分かりませんでした。そして、9.11がアメリカと世界を変えたように、パリのテロ事件も、欧州を始め世界を変える大きな出来事になると思われたのです。



パリの同時多発テロのひとつのボーマルシェは、昨年私が滞在したホテルのすぐそばです。テロが起こった場所は、そのホテルからほんの数メートル先。そして、今年8月に訪れたパリ日本語教会の牧師館は、ボーマルシェとバタ克蘭劇場の間に位置し、どちらも至近距離です。



私は、これまで何度かテロの現場に遭遇してきました。1984年、フランス側のバスク地方の美しい港町、サン・ジャン・ド・リューズで行われた音楽セミナーに参加した際、スペインのバスクのテロ組織、ETA（バスク祖国と自由）が、観光局を爆破しました。

その後、1989年だったと思いますが、コンサートでマドリッドの友人宅に滞在させてもらった日曜の朝9時、すごい爆音が鳴り響き、爆風で建物が揺れました。それは、数メートルも横揺れしたのではないかと思えるほどの衝撃でした。ETAが仕掛けた爆弾です。外に出ると、ほんの14~15メートル先の、警察があるパティオに駐車してあった車が爆破、警察署とパティオに面した5~6階建てのアパートのすべての窓ガラスが割れ、けが人が出ました。その数年

後、マドリッド北の、別の友人宅に滞在していた時も、ほぼ同じようなことがありました。

2004年3月11日はマドリッドの「3.11」、アトーチャ駅列車爆破多発テロがありました。アルカイダによるもので、191人が死亡、2000人のけが人が出ました。マドリッドに大きなうめきが起こりました。その時は私はスペインにはいませんでしたが、丁度その一か月前、コンサートのため、アトーチャ駅からパンプローナに向かう電車に乗ったのでした。このように、スペインでは、いつもテロと背中合わせであることを実感していました。

今、今回のフランスの同時多発テロを機に、欧州全体が、大変な時に突入したと思います。今回のテロ計画のアジトとなったベルギーでは、今週も最高レベルの警戒態勢が敷かれています。

「フーガ」という音楽形式があります。「フーガ」とは、「逃げる」「避ける」という意味の言葉から来ています。神学的に解釈するなら、「フーガ」の音楽は、「神の声を聞いて」→「応答する」あるいは、→「神のもとへ急いで逃げ込む」という形式と言えます。

**「幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。」(詩篇 2:12)**

**「神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。」(詩 46:1)**

私たちは、この神のもとへ逃げ込み、身を避けなければ、ほんとうの守りを得ることは出来ません。

今回のテロ事件を通して、主が、なまぬるい信仰に陥ってしまった欧州の多くのクリスチャンの信仰を目覚めさせ、悔い改めに導いてくださいますように。同時に、新たに真の救い主であるイエス・キリストの信仰に立ち帰る人々が起され、聖霊による祈りの剣をもって、テロに立ち向かう人々が起こされますように（自分も含めて、欧州だけでなく、世界中に！）。そして、憐れみの主が、闇の力に支配され、洗脳されてしまったテロリストたちを揺さぶってくださり、彼らの中にも主に立ち帰る者たちが起こされることを、心から祈り願っています。



~~~~~

## ●感謝とお祈りのお願い

11月21日、衣笠中央キリスト教会での新会堂献堂記念コンサートは、主が豊かに祝して下さり、大変感謝な奉仕をさせていただくことができました。

次回からいよいよクリスマスコンサートが始まります。霊肉、声が守られ、私たちの罪を贖うために生まれてくださったイエス・キリストを、聖霊の力によって証しし、心からの賛美を捧げることができますようお祈りください。

11月28日(土) 行田カベナント教会 東日本大震災被災地チャリティークリスマスコンサート 13:30~

12月5日(土) 日本ホーリネス教団東京聖書学院教会 2015クリスマス音楽の夕べ 17:00~

12月7日(月) プレイズ・ワーシップ (「ミッション宣教の声」主催) 18:45~

12月11日(金) 堺福音教会 クリスマスコンサート 10:30~

12月13日(日) 高槻バプテスト教会 クリスマスコンサート 14:00~

12月23日(水) 札幌聖書キリスト教会 50周年記念クリスマスコンサート 14:30~

イエス・キリストの恵みが、皆さまと共にありますように！

Atsuko Kudo

